

令和8年1月6日

第41回「県民文化奨励賞」の贈呈について

一般財団法人ケンシン地域振興財団では、地域の文化活動に対する表彰事業を目的として、地域の文化活動の発展に功績のあった方々に「県民文化奨励賞」の贈呈を行いました。

1. 第41回「県民文化奨励賞」贈呈式

日 時：令和7年12月22日（月）

場 所：オリエンタルホテル広島

2. 「県民文化奨励賞」受賞者

佐々木 悠氏 （音楽家） 広島市在住

石丸 勝三氏 （造形作家） 東広島市在住

3. 受賞者の紹介

佐々木 悠氏（音楽家）

佐々木悠氏は昭和58年仙台市生まれの音楽家。パイプオルガンやチェンバロの演奏活動に加え、グレゴリオ聖歌を中心とする宗教音楽研究の学術成果を国内外で定期的に発表し、宗教音楽の普及と発展に力を注ぐ。

エリザベト音楽大学在学中よりドイツ・シュトゥットガルト音楽演劇大学に留学し研鑽を積む。平成23年に同大学院博士後期課程を修了し、「日本人のオルガン作品」に関する研究で博士号を取得。平成30年には、国際グレゴリオ聖歌学会主催グレゴリオ聖歌コースを日本人として初めて修了。令和元年には、ドイツ・ベーレンライター社の権威ある専門誌『音楽と教会』に日本人として初めて論文「日本における教会音楽」を発表し、国際的にも注目を集めた。教育の分野では、平成23年よりエリザベト音楽大学に勤務し、令和7年度から大学院音楽研究科研究科長を務め、後進の育成にも尽力しており、西洋音楽研究の根幹にかかわる分野で国際的評価を得る数少ない日本人研究者である。

石丸 勝三氏（造形作家）

石丸勝三氏は、昭和18年広島市南区西蟹屋生まれの石彫を中心とした造形作家。

昭和41年に武蔵野美術大学彫刻科を卒業後、広島为天野石材店にて石加工を学ぶかたわら多くの学校で造形講師を務め、昭和55年に入社した(株)岩崎大理石在社中には昭和60年に原爆慰霊碑を当初のコンクリート製から御影石製へ改築する作業に携ったほか、相生橋建て替え、複数の美術館など多くの建築石材加工を担当。平成2年には造形工房である(有)ストーンスタジオを設立し、県内全域と中国地方各地でモニュメント、建築空間オブジェ、作庭、インスタレーション等を多数手掛けた。平成18年からフリーとなり、平成21年に東広島市へ移住した後、近畿大学の非常勤講師もされた。同じ頃、地元住民で組織する『ささあいの会』を結成し、地元の休耕田で藍を栽培し藍染による作品にも取組み、毎年岩蔵神社に作品を奉納するなど、地域の活性化、絆づくりにも寄与。平成30年には国の指定重要文化財である世界平和記念聖堂の「聖堂記」の文字復元を行うなど、永年に亘りその才能を発揮され、後進の指導、地域への貢献など、幅広い活躍が続けられている。